

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 水澤 純人

2007 年度(入学・編入)

1.研究課題：「パキスタン・パンジャブ州農村部における学校教育と地域社会-私立小学校の位置付けと役割に着目して-」

2. 渡航先：パキスタン・イスラーム共和国

現地滞在期間：平成 24 年 7 月 19 日 ～ 24 年 9 月 23 日 (67 日間)

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

申請時の目的は、私立小学校の設立・増加の背景を明らかにすることであった。そして、推察される要因として、社会経済変容を背景とする教育需要の高まりと、設立関係者を中心とする農村の社会関係の二点を挙げていた。これらについて、調査では、後者についてより具体的な知見が得られた。設立・運営は、経済的に上位の階層に位置する土地所有者が率先しており、それは、場合によっては政府による私立学校支援事業の後押しを受けていた。

社会経済変容については、調査村では、2000 年代に入ってから村内の市場の店舗数が増加しており、様々な消費財が手に入るようになっている。加えて、都市へのアクセスも向上し、人・モノの行き来は極めて活発化している。そうしたことから農業外の就業機会の獲得や高等教育への進学に向け村人の教育意識は高まっており、このことが私立小学校設立に繋がっているという当初の推察はある程度、裏付けられたと考えられる。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

課題は二点ある。まず一点目は、調査地域の特徴を州内あるいはパキスタン全体の中で明確に位置づける必要である。今回訪れたムルタン県はパンジャブ州南部に位置し、ここは州内においても農村の土地所有の不均衡が激しく、一部の土地所有者層が大きな権限を有している。一方、パンジャブ州北部は 1947 年の独立時にインド側から多くの人が移り住み、そうした人々が中間層として育っている関係から、階層関係は南部ほど極端に二極化していないと聞いている。今後は、こうした地域性が人々の社会経済的モビリティに与える影響を考慮して地域を選択する必要がある。

二点目は、綿密な調査計画の策定であり、調査を希望する村の具体的な特徴を調査協力者に伝えると共に、治安や宿泊先からの近接性を考慮し、柔軟に調査村を設定する必要がある。今回把握したこれらの課題を、次回渡航時の教訓として生かしていきたい。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

事前に受け入れ機関を設定する本プログラムでの渡航は、現地カウンターパートとの協力関係を前提として調査を進められる点で、とても有意義であった。今後も、本プログラムの継続を希望いたします。

*1 ページを超えないようにしてください。

* プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。

署名